

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

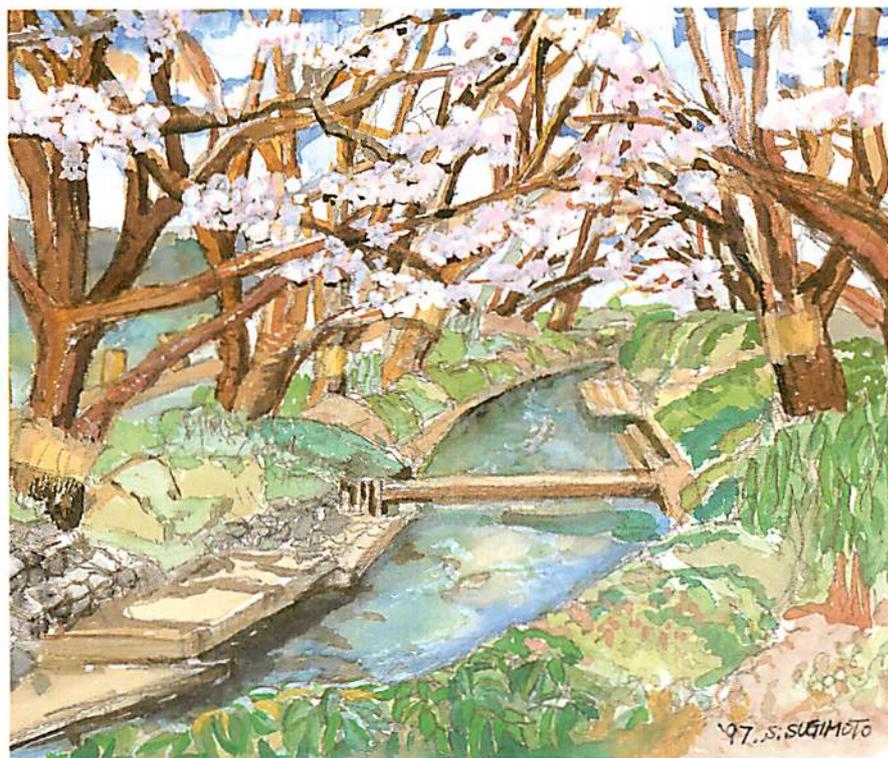
'97

4

月号【1日発行】

小誌の取材・編集スタッフ募集

詳細は裏表紙



いまを話す

稲毛神社宮司で川崎区文化協会長
市川 緋佐磨さん
山王祭りは男女の神の恋物語

■ほんねインタビュー いまを話す

稲毛神社宮司で川崎区文化協会長

市川緋佐麿さん

川崎山王祭りは男女の神の恋物語

●はりきってます グループ紹介

自分の歴史つづる

みのり会

絵で楽しく自己表現する

ぐるうぶ画楽多

◇学習・文化情報

●初めてふれるワープロ講座の受講者募集

◆読者の声／編集後記

◇小誌の取材・編集スタッフ募集

◆表紙絵……一ヶ領用水の桜(宿河原・新船島橋付近)

杉本 繁さん

(小誌は再生紙を使用しています)

はじめての陶芸

粘土をこねる。自分がイメージした形にする。うわぐすりを塗る。焼く。世界でただ1つの陶磁器が出来るまでのあいだ、だれもが陶をときめかせる。それは、美術的趣向と技巧とによって、無限の美感を誕生させる喜びなのか。また、さまざまな形をしたうつわが、家庭やオフィスで使われ、飾られ、役立つことによって日常生活に潤いを与える。

あなたも市民陶芸家への道を歩みませんか。

- ◇期間◇ 5月17日～来年3月21日の隔週土曜、全20回
- ◇時間◇ 午後2時～4時
- ◇会場◇ 市青少年創作センター(小田急線生田駅下車)
- ◇対象◇ 市内在住・在勤の成人で未経験者
- ◇受講料◇ 28,000円
- ◇材料費◇ 7,000円(粘土、釉薬代。教具代は別)
- ◇定員◇ 25人(定員を超えた時は抽選)

●申し込みは、4月15日(火)～19日(土)に☎(422)3932の川崎市生涯学習振興事業団小杉分室

受講者募集

インタビューになりませんか？

みなさまのなかに「ほんねインタビュー いまを話す」のインタビューアをして下さる方、いらっしゃいませんか？。「『いまを話す』が評判がいいのは、なぜだと思う」「やはり、ゲストの素晴らしさでしょう」「半分正解かな。地域と生活に根差したインタビューのこと、忘れていません」。そうだったのですね。

年に数回、インタビューになっていただけませんか。インタビューの前に、ゲストに聴く内容などを一緒に考えます。インタビュー時間は約1時間です。あなたのポテンシャルが開花するはずです。インタビューに不可欠なのは、ポリシーであり知的好奇心です。

希望される方は○郵便番号○住所○氏名○電話番号○年齢○性別○得意のジャンル○略歴○簡単なメッセージ(抱負や希望された動機など)を記し、顔写真(スナップ写真も可)を添えて〒215 麻生区万福寺1の2の2 新百合21ビル(財)川崎市生涯学習振興事業団編集室まで封書でお願いします。

なお、インタビューには薄謝を差し上げます。

バックナンバーに熱い視線？でも…

市内外の生涯学習を実践されている方々から、最近、小誌バックナンバーについてのお問い合わせが増えています。

在庫があるバックナンバーにつきましては、請求者に郵送料のご負担(前払い)をお願いしてお送りしております。郵送料は2部までが190円、5部までが270円、10部までが390円です。

また、在庫がないバックナンバーにつきましては、コピーサービス(1枚につき20円)をしてご要望にお応えしております。つまり、コピー代金と郵送料をご負担いただいているわけです。

いずれの場合も、当編集チームに代金が届きましてから1週間前後の送付となります。

郵送料の無料サービスや後払いのご要望もありますが、小誌はPR誌ではなく市民の皆様からの税金で制作しておりますので、そのようなサービスを行なうことは、予算の上から困難なばかりか、不公平になります。ご理解いただきますようお願い申し上げます。

もったいない！眠る市民情報

日ごろから、小誌の「学習・文化情報欄」をご愛読いただき、ありがとうございます。

ところで、市民のみなさまからせっかく提供していただいた情報(資料)が、毎号数件眠っています。

その主な理由は、原稿の元になる市民から提供される情報(資料)が、原稿締め切り日を過ぎて編集チームに届くことです。

情報を眠らせないため、資料提供締め切り日を厳守されますようお願いいたします。締め切り日は掲載号の前々月末日(5月号の場合は3月31日)、編集チームへ必着でございます。

また、情報を提供される際、写真がありましたら添付をお願いします。

同欄は公共施設の情報に限らないで、市民の皆様が自主的に行なう情報も掲載しております。また、開催場所も市内に限定しておりません。市民のみなさまが行う展示やイベントは市外でも掲載しております。

いまを話す

ゲスト

稲毛神社宮司で川崎区文化協会長

市川 緋佐磨 さん

Vol.53



壮観な川崎
山王祭りは

男女の神の恋物語

行ってみたい川崎へ熱い想い

稲毛神社の川崎山王祭りは壮観。男女二体の御輿みこしのラブストーリーでもある。宮司の市川緋佐磨さん(54)はペランメエ口調のロマンチスト。低成長下、川崎区の経済沈下を心配し、お江戸の胃袋を満たした農村から工都へ変容した川崎を、「二世紀は観光都市」へ思いを馳せる。「市民も行政も観光の意識を」といい、一見突拍子もない提案を。そのネライは住民の熱い論議を期待しての種まき？。自由に歓談する「サロン稲毛」は「すぐ、つぶれる」と思ってたが十五年目。その成功の裏に「日常のことは氏子がやればよい」との神社コミュニティ論が。自主的に集まる・話す・実行するの実績が説得力を持つ。インタビューアは伊藤真弓さん。

——神社の一室で、講演や演奏を聴いた後、参加者が飲食をともにして、楽しく語り合う「サロン稲毛」に、初めて参加して面白いと思いました。

市川さん あれは「ませご飯」なんです。それがいいんでしょうね。もともとは、著名な講師ではなく、地元で面白い生き方や活動をされている人をお呼びしたらどうだろうと始めたんです。

——発足のきっかけは。
市川さん 十四、五年前に、この近くに「日本地名研究所」が設

立され、民俗学者で地名研の所長になられた谷川健一先生をお招きしたんです。このとき、沖繩の神事「イザイホー」のお話を聴き、その記録映画を観賞したんですが、その後の直会ちくわいが好評でした……。

——直会の本来の意味は、神事が終わった後、お神酒・お供物をいただく酒宴のことですね。

市川さん ええそうです。参加者みんなで飲食をし、谷川先生もくつろいで話の中に入られたのですが、「これはいい、続けよう」ということになってね。

——いろいろな方が、本当にリラックスして話し合っていますね、直会は。

市川さん それで、僕ら三人の世話人が「参加費が多少高くても欲談できる会にしよう」と決めたいんです。だけど「すぐ、つぶれちゃう」と思って、年会費を決めず、会則も作らないで、自由に参加できる会にしたんですが(笑い)。

——長続きしないと思って、「サロン稲毛」の例会が、毎月開かれ、この四月で百六十九回にもなる。神様のお陰ですか？(ちゃめっぽく)。

市川さん 自由参加にしたこと



集う・聴く・飲食し・歓談する

「サロン稲毛」が長続きしたのは？

よかった、寄り合い的自由さ

で、世話人も参加者も「人を集めなければ」「行かなければ」というプレッシャーがないことが、長続きした秘訣なのかなあ。

——そうは言っても、人数が少ない例会のときもあったでしょ。

市川さん あるある。多いときは百七十人ぐらい。少ないときは二十数人。地元の人の葬式や旅行と重なったりして。最初のころは

ロコミだけが頼り。いまは「サロン稲毛を支える会」もできて百人以上の人に案内を出しています。

——「サロン稲毛」というネーミング、自由に楽しく歓談できる雰囲気がありますね。

市川さん 私が考えたんですが、その当時は「イメージが悪い」という声もあって……。あのころは、アルバイト・サロンが流行っていたので。

——はあ？。お料理は手づくりでしたね。

市川さん 家内と三、四人の知人で作っています。四千円の会費で、講師の謝礼と飲んで食べてもらうのですから。

——こんなに長く地域活動をしている神社は少ないでしょうね。

市川さん 神社というのは本来は氏子のものであります。地元の人たちが神様を祭って自分たちでやるものなんです。神主がいなくて神社なんです。

——分からなくなってきたぞ？（独り言のように）。

市川さん 今、全国に八万数千の神社がありますが、神主は二万五千から三万人ぐらい。川崎市には九十五の神社がありますが、宮司は十八人しかいないんです。十社ぐらいの宮司を兼ねている人もいますよ。

——へーえ。



市川さん 宮司は、本来は宗教行事の責任者なんです。日常のことは氏子の総代さんたちがやっているんです。だから、神主が直接リーダーになるのではなく、氏子の人々が自主的にやりたいことをおやりになればいいんです。

——神社って、本来はとても開かれていたものなのですね。

市川さん そうですよ。神社が敷居を低くして、地域の方々が気軽に寄って下さることが大切な

市川 緋佐磨 さん

いちかわ・ひさまろ=1942年、川崎区生まれ。慶応大学法学部、国学院大学神道学専攻科卒業後、稲毛神社に奉職、その後、同神社宮司。1978年から81年まで川崎区民懇話会委員。83年、「サロン稲毛」をつくり、同サロン幹事として月一回の例会を開く。92年、川崎区文化協会を設立し初代会長に就任、現在に至る。また、稲毛神社を核に幅広い地域文化活動を行う。自宅は川崎区宮本町の同神社内。

です。かかつては「昔話を聞く会」を開きましたし、子供が多くいたころは、子供団体の集会場として開放していました。

——ところで、稲毛神社といえ、八月一日から三日間行われる勇壮な「川崎山王祭り」が一番のビッグイベントですよ。

市川さん このお祭りも、御輿の巡幸はその運営のプロ集団ともいえる氏子青年会がまとめているのです。担ぎ手は約七十団体が参加します。その内訳は氏子、外部の人がほぼ半々で、「川崎山王祭り」は、すごく盛り上がり、まち全体

が心地よい興奮に包まれる」とみなさんがいます。でも、祭りの準備・運営は大変なんですよ。

——いつごろから準備を始めるのですか。

市川さん 四月ごろ、部会ごとの寄り合いが始まります。七月になると、しめ縄をなったり、御輿を洗ったり、のぼりを立てたり……。『はんでん合わせ』という御輿の担ぎ手のリーダーの打ち合わ

なぜ？ 神社には塀が無いの

リーダーは神主でなく氏子

地元の人

せもあります。この準備は、長い間に培われた段取りで進んでいき、祭りまでにきちっと準備が整うんです。それぞれのリーダーはいませんが、実行委員長なんていない。

万一、けんかがあったときに備え、それを処理する部隊もいるんです。お御輿の担ぎ手が少なくなっている地域もあるそうですが。

市川さん 駅前繁華街の町会は、青年がかなり少なくなりました。でも、約十年前に六町会がまとまって三、四十人で青年会を作ったこともあって、担ぎ手は増えているんです。今年、三十周年の氏子青年会とそのOBの稲毛衆の存在が大きいと思うね。

——稲毛神社大神輿は二体ありますが……。

市川さん それは玉と孔雀という二体で玉は女性、孔雀は男性の神様が祭られています。お祭りで神様が結婚され、女神様が身ごもられて、子供の神様が生まれるというストーリーがあるんです。これは大変珍しいんです。一体を八人前後で担ぎますが、最近では女性の担ぎ手も多く、専門学校で日本語を学んでいる外国人の青年も

三、四十人が参加します。——お祭りが管理型でないところがいいですね。

市川さん お宮っていうのは、昔からコミュニティ、寄り合いの場なんです。神社って塀をしてあるところはないでしょ。真夜中でも入れるんです。

——小さいころ、お宮の境内でよく遊んだのを覚えています。お祭りに行くと、必ずだれかに会えるのもいいですね。

市川さん それそれ、それがいいんだよ。「お祭りであいつに会ったよ。元気だった」なんてね。

——お祭りにも下町のよさが感じられますが、川崎のイメージはなかなかプラスにならない感じですが……。

市川さん いつまでも公害のイメージを払拭できないのは、ひとつには外からのお客を呼ぶ努力をしていないからです。市民、市政の意識の中に「観光」を真剣に入れる時期にきていると思っっているんです。魅力的なパリ・ニューヨーク・東京・仙台は、すべて観光都市です。いまの川崎には観光的要素が少な過ぎます。たくさんの人に來てもらおうという観光の意識



玉と孔雀が恋をする川崎山王祭りにまち全体が興奮する

観光資源

水陸両用車で駅→多摩川
市民の論議・着想生かせ

を強めることによって、市民・行政がまちづくりについて真剣に勉強し、地についての論議をして、きちんとした具体的都市像がつけられていくと思うんです。

——具体的には……。



市川さん いま、富士見公園を

どうするか、論議をしているんです。岡本太郎記念館をメインにするのと面白いと思うんです。岡本さんの作品は、緑地よりも人工的な空間のほうが映えるし、屋外の作品は、駅からの通りに展示したらいい。市は生田緑地に建設を決めているようですが(残念そうに)。

——富士見公園といっても、北

部市民はピンときませんが。

市川さん 富士見公園は、日比谷公園より少し大きい十六(じゅうろく)万、その競輪場に來る人は年間六、七十万。日比谷公園に來る人は五百万。横浜の山下公園の広さは、富士見公園の約三倍ですが千八百万人も來ます。オフィス街に近いとか、まわりに楽しい施設があると、これだけ違いが出るのです。川崎市民のためのまちづくりは大切なことです。同時に、他の県民や市民が「行ってみたいまち」づくりの視点も大切ではないでしょうか。

——川崎をどうするかですね。

市川さん 二一世紀の富士見公園が魅力ある場になれば、観光客が増え、まちが活性化し、経済的効果を生み出します。しかし、住民から、さまざまな施設作りの要求が出ているのも事実です。ある大学の先生が「人を集めるためには、一九世紀は博覧会、最近まで

はテーマパーク、これからは緑地だ」と言っています。私もその通りだろうと思います。

——観光にはアクセスの問題も真剣に考えないと。

市川さん すべてのものを観光資源にする努力が求められています。川崎には自動車製造会社がありますが、水陸両用自動車を開発してもらい、川崎駅からドボーンと多摩川に入って羽田へ行くとか、駅前の高いビルからジェットコースターみたいな乗り物でダダッと……(大笑い)。

——夢のある発想ですね。突拍子もない話と思う人もいるでしょうが、他都市の二番煎じやお客は來ない、と思います。

市川さん 「面白い」というものを取り入れないと観光都市にはなりませんよ。とにかく、市民が論議をして、さまざまなアイデアを出し合うことです。



伊藤眞弓さん

伊藤 眞弓 さん

いとう・まゆみ=米国 Grand View College 卒。声優・北川智繪主宰「話芸写」の「語り」と上演音楽を担当。英語教室を主宰し、声の仕事や難民支援のチャリティー語りも。川崎に住んで28年。自宅は中原区新丸子。

——川崎の文化についてお感じになっていることは。

市川さん 川崎市は、外国人市民代表者会議など全国に先がけた素晴らしい施策をたくさん行っています。今後は、文化の面でも新しい試みに挑戦してほしいですね。その手始めとして、市民が積極的に提案したり協力できるような文化行政のシステム作りを急いでほしいですね。また、文化施設や財団などのトップは、それにふさわしい専門家や民間人を登用して、企画力とかソフトの面の充実を図るべきだと思います。

——川崎には文化・芸術分野の人材がたくさんいますので、早く実現することを願っています。

題字は高橋清・川崎市長

構成/野々川千恵子

文責/田中 閑

はりきってます グループ紹介



後世に伝えたい！ 昭和をこう生きた

る。

毎月一回、県立高津青少年会館などで「自分がいざ書くとなると何をどう書けば……」との執筆者としての基本的問題と「格闘」しながら、青木信雄・産能大学講師のアドバイザーを得たり、仲間と語り合いながら、楽しく自分史づくりに取り組んでいる。

この日は、毎年発行している手作りの「みのり文集」第四号の編集作業。文集には、この一年間の勉強会で各会員が書いた「編が収められている。どの作品も自評し、会員同士が批評しあい、講師のアドバイザーを受けた力作ぞろい。

各人が、自筆の元原稿と文集のためのワープロ原稿とを何度も見比べながらチェックする。青木講師が「校正は宝探しのようなもの。校正をしながら、自分の文章の十分なところを見つけ、反省することが上達のコツ」と指摘。会員は微笑を浮かべ顔を見合わせる。

文集の中には、戦地で友を亡くした体験を鎮魂の意味を込めて書いた宮崎喜重郎さん(66)の作品もあり、戦争体験者には生々しく記憶がよみがえり、若い人には戦場における悲惨さと友情を知るき

つかけになることだろう。

同会は四年前、高津市民館の高齢者教室自分史講座の修了者有志で発足。会員の夢は、書きためた原稿をまとめて、一冊の個人の自分史を編纂することだという。

青木講師は「書くという行為は大変です。会員の皆さんは意欲的で、チャレンジ精神を感じます。

自分史で大切なのは、嘘を書かず、登場人物を傷つけず、自分だけ史・自慢史にならないこと。心に強く残ったことや生活の転換期のことから書きはじめるといいと思います」と話す。

高橋代表は「やりがいのある会です。年のことは意識せず、皆さんとともに、真摯な気持ちで勉強会をつづけたい」と目を輝かせる。加部金五郎さん(66)は「妻を亡くし、夫婦の足跡や家族の思い出を残したくて」と話す。

入会半年の青木久子さん(71)は「自分史なんて、とっついていない。書くことで頭が活性化するので書き続けます」と意欲的。

同代表宅は、高津区末長一四五
一。☎(8222)98599。

文／小誌・野々川千恵子
カメラ／小誌・山本 綾子

自分の歴史を つづける

みのり会 (高津区)

自分にしか書けない、自分の人生の歴史を綴る自分史——「みのり会」——高橋三和子代表(73)——「生きた証を残したい」「苦手な文の熟年メンバー十一人は「自分のたい」と、明るい表情でペンを握

仲間と楽しむ

学び

活躍する

生き生きと

はりきってます グループ紹介

絵で楽しむ習字表現の会

——ぐるっぶ画楽多(麻生区)

童心に帰ったように、無心に絵筆を握る「ぐるっぶ画楽多」庄司和子代表(83)ら二十四人は、モチーフをそれぞれの会員が、自己表現できる喜びを満喫している。

第三日曜と第四水曜の午後、春秋の季節には野外で写生、夏冬や悪天候のときは栗平自治会館(麻生区)で人物や静物の描写をする。水彩画、油絵、パステル画など技法や絵の大きさが自由の作品展を年一回、同会館や麻生市民ギャラリーで開き、市民の目を楽しませている。

この日は、バレリーナをモデルにしての人物描写。バレリーナを見つめ、イメージを膨らませる会員たち。鉛筆の上の方を握り一気に足を描く男性。線を描いては指の腹でこすりばかす人。完へきと映ったスケッチを全部消して描き直す女性もいる。どの会員も作品を自分のイメージに近づけようと神経を集中させる。

二十分間描くと十分間休憩する。「あらかん可愛い、似てる」と和やかに話す女性。「ちよつと足が短いですかね」と未完の絵の感想を求

める男性に「体の骨格が狂わないよう描くのは難しいですよ」と言いながら、絵の頭や胸の長さを鉛筆で測り「とてもバランスがいいです」と答える会員。

一時間が経ち、絵に命が吹き込まれる。バレリーナの姿全体をパステルの柔らかいタッチで描いた作品、顔の表情を薄く色付けした水彩画、大胆な線と色使いの油絵。作者の愛情と意気込みが伝わる。同会には指導者がいない。他の会員の描く姿や作品から学ぶことが上達の秘けつで、メンバー全員が先生であり生徒なのだ。

一年前の夏、趣味が絵かきの平哲雄さん(63)が「地元で絵を描く会を作りませんか」と呼びかけ、同会が発足した。平さんは「切磋琢磨して、描く枚数も増えました」とうれしそう。

富岡多栄子さん(86)は「仲間がいると、絵を描こうという気になります。上手、下手より楽しく絵を描きたい」とにっこり。高橋成雄さん(64)は「今、自分の画風はどんなものかと考えています」とさらに意欲を燃やす。藤田康代さん(62)は「スケッチがうまいくいつても、色を塗り過ぎてしまうことも」と失敗を自己分析。

庄司代表は「年齢や環境にかかわらずなく、絵を描く情熱を持った人たちの集まり。皆で協力しあい、楽しんでる会です」と話す。

連絡は麻生区白鳥一の六一九。(087)3111の平さん。
文／小誌・山本 綾子
カメラ／小誌・野々川千恵子

上達のヒケツは 情熱・愉快・協力



仲間と楽しむ

絵

習字表現の会

はりきってます

学習・文化情報

心やすらぐ音楽がある

ステージ



「二胡と揚琴、笙の演奏会」天女達の華麗な楽曲◆麻生文化センター」4月12日(土)18時半開演。春江花月夜▽茉莉花(中国民歌)▽さくら変奏曲(日本古謡)▽喜納昌吉「花」。演奏は、笙・銭騰浩▽二胡・劉鋒▽揚琴・張薇薇。全自由席2千円。前売りは☎(965)3076のプレイガイド・テイト(新百合ヶ丘エルミロード4F)。問い合わせは☎(953)3622の川口さん。つるかわ中国文化研究サークル主催。

「花金曜寄席◆ギヤラリ」4月4日(金)19時開演。出演は林家錦平ら。演目は安武松ほか。入場料は飲み物付きで前売り千3百円、当日千5百円。問い合わせは☎(812)6090の同所。溝ノ口駅下車。

「麻生フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会◆麻生



文化センター」4月6日(日)14時半開演。ワグナー「ローエングリン」より第一幕への前奏曲▽チャイコフスキー「ロメオとジュリエット」▽ベートーヴェン「交響曲第7番イ長調」写真とは昨年。指揮は今村能全自由席千円。前売りは☎

(966)5121の京浜楽器百合丘店▽☎(965)3077のチケットテイト(新百合ヶ丘エルミロード4F)。問い合わせは☎(955)1953の横須賀さん。

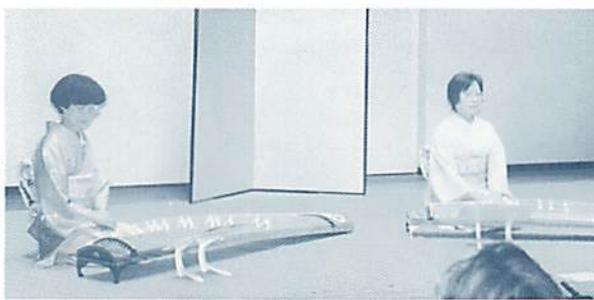
「新百合混声合唱団定期演奏会」ヘンデル「メサイア」◆麻生文化センター」5月4日(日)13時半開演。指揮は富澤裕、管弦楽はアルビノーニ室内合奏団。独唱は三塚直美(ソプラノ)▽斉藤佳奈子(アルト)▽辻端幹彦(テノール)▽三塚至(バス)。全自由席2千円。問い合わせは☎(966)8398の柏木さん。

「さつき寄席◆川崎市民プラザ」5月10日(土)18時から。出演は林家こん平▽林家木久蔵▽林家さく姫▽青空球児好児。入場料は前売り千8百円▽当日2千円▽小人5百円。前売りは4月1日(火)から☎(888)3131の同所へ来場。

「箏・三絃を楽しむ会◆

市外同番のないものは044

「糞ホール」4月12日(土)14時開演。出演は辰繁敬子、池田庸子。写真は昨年。演目



は宮城道雄「初鶯」▽「さくら」▽菊城正明「春の名残り」他。無料。問い合わせは☎(811)2166の池田さんか☎03(3703)6736の辰繁さん。会場は溝ノ口駅下車。

「①小山昭雄ファゴットリサイタル②全日本吹奏楽

学習・文化情報

コンクール課題曲▽洗足学園大学吹奏楽特別クリニク◆洗足学園前田ホール」①は4月11日(金)18時半開演。デュティユー「サラバンドと行進」▽ビッチ「コンチエルトイノー」▽シユテツキヒト「3つの日本のメロディー」より(初演)他。ピアノはイヴァ・ナヴラトヴァ。無料②は4月29日(祝)13時開演。解説と指揮はA・リード同大学客員教授。演奏は同大学シンフォニックウインドオーケストラ。全自由席千円。問い合わせは☎(877)3211内線285の同大学演奏部。会場は溝ノ口駅下車。

「県青少年古典芸能「狂言」鑑賞会◆県立青少年センター」5月17日(土)。午前の部は11時開演。演目は「仏師」▽豊山伏。学生向き▽午後の部は14時開演。演目は「佐渡狐」魚説法「二人袴」。一般向き。いずれも出演は野村万蔵狂言会。対象は小学生以上。料金は全

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演

指定席で午前の部は一般千二百円、高校生以下五百円
▽午後の部は一般千六百円、高校生以下七百円。定員は各950人。申し込みは☎045(241)3131
内線3411の同センター・舞台芸術部企画課。会場は桜木町駅下車。

「和光大学オープン・カレッジ97◆同大学ばいであれ」5月6日(火)から開講の講座を募集。講座は中国語▽トルコ語▽チベット語▽タイ語▽朝鮮語▽ラオス語▽アラビア語▽タガログ語(フィリピン)語▽シンハラ語▽ヒンディー語▽モンゴル語▽自然の文化史・文学の自然史▽自然の色彩で描く・染める▽火と明かりの文化史▽自然工房▽つくろ・あそぶ・かんがえる▽口琴を作ってみませんか▽墨絵▽自然・東洋画▽インド音楽▽中国の歌▽点字▽手話▽日本のコメを考える▽私の出会った地方仏▽仏教美術の変遷と魅力▽中世

の災害と社会▽中世貴族の日記を読む▽西洋美術の見方▽パウエル・クレイの生涯と芸術▽近代日本の小説を読む▽かけあい「源氏物語」▽翻訳入門▽教育と文学の間で▽教育を考える▽親子どもの現在▽臨床心理学を考える▽性・戸籍・市民権・国籍▽動かしてみよう。各講座とも週1回百分受講料は9千13万円。申し込みは4月16日(水)必着で案内チラシにある「受講申込書」を郵送。資料請求は☎044(988)1433の和光大学・大学開放係鶴川駅前。

7回。初歩の手話を学び、聴力障害者から実情を聞く。無料。20人(抽選)。申し込みは4月30日(水)までに往復はがきに住所、氏名、電話番号を記し〒215麻生区細山1209の同園。☎(954)5011。新百合ヶ丘駅からバス。
「スポーツコーナー利用講習会◆県立川崎青少年会館」4月19日(土)18時半から。ウエイトトレーニングの基本と利用方法。対象は16歳以上の健康な人。保険料千三百円。定員15人。申し込みは☎(222)5282の同館。

「手軽に楽しむテーブルフラワーアレンジ◆登録ドレズメーカー学院」4月14日(月)14時、18時半から。初心者も簡単に楽しめる実技とアイデアを学ぶ。無料。花材費各2千五百円。定員は各10人。申し込みは、4月10日(水)締め切りで午前中に☎(911)2221の同学院。向ヶ丘遊園駅下車。

緑化センター①は4月30日(水)。教材費3千円②は5月14日(水)。教材費5百円。③は5月7日(来)4月1日の月一回、主に第一水曜、全12回。園芸全般について基礎知識の講義と実習。受講料4千円、教材費は別。定員は①②30人③40人(抽選)。いずれも13時半から。対象は市内在住者で①②は在勤者も可。申し込みは4月18日(金)20日(水)までに往復はがき(1人1枚)に講習会名、住所、氏名、電話番号を記し〒214多摩区宿河原6の14の1、同センター③は4月9日(水)13時半に同センターへ来場。問い合わせは☎(911)2177の同センター。

「没後20年「中村正義展」関連イベント①講演会②ワークショップ③みるみるかくくミュージアム◆市市民ミュージアム」①は5月11日(日)「美術家としての中村正義」と題し、栗津潔・アートディレクターが講演▽17日(土)「戦後の日本画と中村正義」と題し、針生一郎・和光大名誉教授が講演。

いずれも14時から。無料。定員は各270人②は5月10日(土)24日(土)13時から。中村正義の絵をもとに自由に絵を描き、展覧会を鑑賞する。指導は中村正義の美術館スタッフ。対象は小学4年～中学3年。参加費無料。教材費3百円。定員は各20人。申し込みは①不要②5月1日(水)9時半から☎(754)4500の同所。

①社交ダンス特別講習会②社交ダンス短期集中教室③社交ダンス教室④女性硬式テニス教室◆川崎市民プラザ①は4月19日(土)13時から。タンゴ、チャチャチャとステップ。対象は初・中級者②は4月28日(月)5月5日(日)10時から、全7回。ルンバ、ワルツのステップ。対象は初級者③は5月10日～7月12日の毎週土曜、9時から中級者▽10時55分から初級者、全10回④は5月12日～7月14日の毎週月曜、10時から初級者▽13時から中級者、全10回。受講料は①3千円②1万円③④1万2千円。定員は①男女各25人②男女各15人③

学習・文化情報

参加したい催しがある

各80人④各30人。申し込みは①4月10日(木)③30日(火)④25日(金)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、希望コースを記し〒213高津区新作1の19の1、同ブラザ、講習会・各教室係②は4月1日(火)から受講料を添え同所へ来場。問い合わせは☎(888)3131の同所。

①あさお青年教室②保育ポランティア研修◆麻生市民館①は4月19日(土)14時から、毎月1回。知的障害のある青年たちとレクリエーション活動。参加者とボランティアスタッフを募集。交通費など自己負担②は5月20日〜7月1日の毎週火曜主に10時から、全7回。市民館保育のための養成講座。無料。定員先着20人。申し込みは①当日会場②4月15日(火)10時から☎(951)1300の同館。

「こんぴら歌舞伎と江戸の芝居見物◆玉川大学」4月26日(土)5月10日(土)15時から。日本最古の芝居小屋の特徴、江戸時代の芝居見物のありさま、鑑賞作品の

「番町血屋敷」身替座禅の見どころを説明。講師は法月敏彦・同大助教授ほか。鑑賞会は5月11日(日)12日(月)香川県琴平の金丸座。受講料は資料代込み5千円、旅行費は別。定員25人。申し込みは4月2日(水)から☎0427(39)8895の同大学継続学習センター。玉川学園前駅下車。

①子どもと遊ぶ②静物画を描く③春の生き物ウォッチング④ガーデニング入門◆玉川大学①は5月10、24、31日の土曜10時半から、全3回。子供と関わり方がうまく出来ない父親のための講座。対象は3〜4歳児と父親。受講料1万円。定員は15組30人②③④は5月7月に開講②は土曜の午後、全10回。対象は中高年世代の方。家庭的な雰囲気。個々のレベルに応じて指導③は月1回、全3回。玉川学園構内の動植物を観察。環境問題を考える④は月2回、水曜。コンテナ作り、寄せ植えなどの実践から基礎知識、技術、楽しみ方を身に付ける。問い合わせは

☎0427(39)8895の同大学継続学習センター。玉川学園前駅下車。

催し

「ひかりの作家作品展示即売会◆ひかりの家」4月26日(土)27日(日)10〜15時。民間福祉施設「ひかりの家」(古沢妙代表)の人たちの手づくりクッキー▽ケーキ▽キャラメル▽エプロン▽パッチワーク▽手さげ▽和紙工芸品など格安で。問い合わせは☎(455)0538のひかりの家。平間駅下車。

①わくわく実験教室②サイエンスショー◆東芝科学館①は4月12日(土)10時と13時から。「ぼくのセンサー」、わたしのセンサー」と題し、実験を中心に説明②は4月26日(土)11時と14時半から。「びっくり静電気」がテーマのおもしろいショー。いずれも無料。問い合わせは☎(549)2200の同館。川崎駅からバス。

◆シネマクラブ「バルト」川崎マリエン」5月11日

(日)14時から。製作総指揮ステイブ・スビルバーグの実話に基づくアニメ映画。日本語吹き替え版。無料。当日先着3百人。問い合わせは☎(287)6009の川崎港振興協会、担当・鈴木さん。

「市民天体観望会◆川崎授産学園」4月12日(土)18時半から。ヘールポップ彗星、月面、火星を観望。雨、曇りは天文集会。無料。小学生以下は保護者同伴。問い合わせは☎(954)5011の同園。新百合ヶ丘駅からバス。

①星を見る夕べ②生田緑地ミニ観察会③星の撮影教室④小・中学生天文教室⑤ワクワクワーク〜鳥のブローチをつくろう⑥親子地層探検教室◆市青少年科学館①は4月19日(土)26日(土)18時半から。月、土星、星団を観望。雨、曇りはブラネタリウムで星の話②は4月5日(土)植物観察▽20日(日)地層観察。いずれも13時20分、同館集合。筆記具、図鑑、ルーペ持参③は5月16日(金)19時から。火星を撮影。

対象は小学5年以上。定員先着10人。一眼レフカメラボディ、フィルム、レリーズ持参。雨天中止④は5月18日〜来年3月8日の毎月1回日曜16時半から、全11回。教材費千円。定員先着30人⑤は5月18日(日)13時から。教材費百円。定員先着20人⑥は5月10日〜来年3月14日の毎月第2土曜13時半から、全11回。定員先着15組。いずれも小学生以下は要保護者。申し込みは①②不要③4月18日(金)④15日(火)⑤20日(日)⑥12日(土)9時から☎(922)4731の同館。

「日本サクラソウ展◆市緑化センター」4月23日(水)〜5月6日(火)9時半から。2百品種を開花に際して展示。問い合わせは☎(911)2177の同センター。

「没後20年「中村正義展」関連イベント〜映画上映◆市市民ミュージアム」5月3日(木)「怪談」〜再編集版▽4日(日)「怪談」〜オリジナル。同作品は、小林正樹監督、4話オムニバス。カヌエ映画祭審査員特別賞受

学習・文化情報

魅力的な絵がある

賞作▽10日(土)「水俣 患者さんとその世界」。土本典昭演出。いずれも13時半から一般500円、小中学生300円。定員は当日先着各270人。問い合わせは☎(754)45000の同所。

①ダンスパーティー②映画劇場③グローイングサークラス◆川崎市民プラザ①は4月19日(土)18時半からザ・ビッグバンド・オブ・ローグスの生演奏②は5月3日(祝)「トイ・ストーリー」ジョン・ラセター監督。日本語吹き替え版▽4日(日)「イレイザー」。チャールズ・ラッセル監督。アノルド・シュワルツェネッガー出演。いずれも10時と14時から。定員は各回当日先着500人③は5月5日(祝)10時半と14時から。コミカルー輪車、ブランコショー他。入場料は①2千円、他は無料。①の前売りは4月1日(火)から同プラザへ来場。問い合わせは☎(888)3131の同所。

①は男声合唱▽女声合唱▽混声合唱。対象は市内在住在勤在学の高校生以上の団体。参加料は、高校生は1団体500円、他は千円▽他に団員1人につき高校生200円、他は300円。発表は7月19日(土)20日(日)宮前市民館で②は絵画(日本画・洋画・版画)▽写真▽書道。1種目に付き2点まで。出品料は1種目2千円。展示は6月29日(日)7月6日(日)市教育文化会館で。要項の配布は①4月②4月中旬から、各区役所・支所・市民館・図書館で。申し込みは①5月6日(火)②5月30日(金)までに申込書に必要事項を記し〒210川崎区駅前本町12の1タワー・リパーク3階、市文化財団の各係へ郵送か持参する。問い合わせは☎(222)8821の市文化財団。

①「麻生平和人権セミナー」企画委員募集②冒険クラブ◆麻生市民館①は身近な生活から考えるセミナー。第一回企画委員会は5月28日(水)10時から②は5月11日(日)から主に月1回10時から。自然、街での新しい発見、仲間との活動で楽しい出会いを体験。対象は小学4年〜中学生。交通費など自己負担。定員40人。申し込みは①は4月16日(水)10時から☎(951)1300の同館②不要。

①押花教室②タッチングレース教室◆市生涯学習振興事業団研修室 4月15日から毎月第3火曜①は13時と17時半から。従来の乾燥剤より早く、自然色を生かした作品作り②は9時半と14時から。ヨーロッパの伝統あるクラシックレースを作る。入会金①5千円②2千500円。いずれも会費は2千500円。問い合わせは☎045(935)3066の野々村さん。ふしぎな花倶楽部主催。

①「中村正義の美術館」4月12日(土)5月25日(日)中期・模索と多様化の時代。正義の日展脱退から1973年までの同館所蔵作品「顔」「舞妓」「写真」「風景」など40点を展示。一般500円、学生300円、小中200円。☎(953)4936。読売ランド前駅からバス。「市民ミュージアム」欄に関連記事あり)「スナック喫茶」4月12日(土)まで坂本隆生個展。クロッキーによる人物画▽12日(土)5月3日(祝)写真風景展。福岡信吉、佐藤繁納の作品を展示。☎(544)0507。鹿島田駅下車。



「ギャラリイ」4月11日(金)23日(水)開設7周年記念展。絵画、写真、鎌倉彫りやちぎり絵の工芸、陶芸を展示。同画廊が開廊から関わった作家たちが1人1作を出品し祝う。☎(555)8181。JR川崎駅西口下車。



「ギャラリイ」4月12日(土)13日(日)いけばなありとはなおか第6回習作展、花の時間。無料。問い合わせは☎(855)5280の花岡さん。溝ノ口駅下車。「市民ミュージアム」4月26日(土)6月1日(日)没後20年 中村正義展。日本画の常識を覆し、風雲児と騒がれた正義の日展時代から晩年の代表的な絵画を中心に素描、下絵など180点▽4月15日(火)まで、マリイ・ローランサン展。「羽飾りの帽子の女」写真」な

学習・文化情報

元気になるスポーツがある

大学生300円▽他は一般300円、小〜大生100円。☎(754)4500。

「新百合ヶ丘エルミロード1階吹き抜け」4月2日(水)〜7日(月)春の大絵画展。石井清、デイズニーのセル画、リヤド、鉄平などの作品を展示、即売。問い合わせは☎(965)3136のギャラリーアートヨシムラ。新百合ヶ丘駅前。

「画廊ランブ屋」4月10日(水)〜26日(土)ヨーロッパボスター展〜ベルエポックから現代まで。展覧会用ボスター、オリジナルリトグラフの貴重なボスター80点。写真は「パフランシーヌ」。

☎(945)4416。稲田堤駅下車。



「アートガーデンかわさき」4月13日(日)まで、星野富弘花の詩画展。「おだまき」写真ほか、原画など百



点を展示。星野富弘さん。写真は、不慮の事故で

手足の自由を全く奪われ、長い闘病の中で詩画に楽しみを見いだし、思いを託し描いている。問い合わせは☎(222)8821の市文化財団内・かわさき同詩画展を開く会事務局。



「いちが、一番大切にしたいこと」
「いっしょに、いっしょに」
「生きる喜び、育む喜び」
「あつちより大切にしたいこと」
「あつちより大切にしたいこと」
「あつちより大切にしたいこと」
「あつちより大切にしたいこと」

スポーツ

「①たのしいウォーキング②パドルテニス入門③シルバースポーツ教室はつらつ健康体操④少年スポーツ教室」

◆幸スポーツセンター
①は4月23日〜6月25日の毎週水曜13時半から②は4

月26日〜7月5日の毎週土曜10時から③は4月24日〜6月26日の毎週木曜13時半から④5月8日〜7月10日の毎週木曜16時から。対象は①②15歳以上③60歳以上④小学1〜4年生。受講料は①②4千円③千200円④600円。定員は③40人、他は30人。申し込みは①4月16日(水)10時②19日(土)10時③

17日(水)14時④24日(水)16時に同センターへ来館。☎(555)3011。
「①社交ダンス②ソフトバレーボール③はつらつ健康体操④親子体力づくり⑤ミニバスケットボール」とどろきアリーナ」①は5月16日〜7月18日の毎週金曜②は5月16日〜6月13日の毎週金曜③は5月13日〜6月10日の毎週火曜④は5月14日〜6月11日の毎週水曜⑤は5月13日〜7月15日の毎週火曜。時間は①②④10時から③13時半から⑤18時から。対象は①②15歳以上③60歳以上④3・4歳児と保護者⑤小学4〜6年生。受講料は①4千円②③2千円④⑤千500円。②のみ教材費500円。定員は④30組、他は40人。申し込みは4月22日(火)③13時半⑤18時、他は10時に同所へ来場。☎(798)5000。

「①子育てママのリフレッシュタイム」火曜・金曜コース②高齢者向け新卓球③親子ふれあいスイミング④ジャズダンス◆麻生スポーツセンター」①の火曜コースは4月22日〜6月3日の毎週▽金曜コースは4月25日〜5月23日の毎週。いずれも9時半から。対象は平成6年生まれの子供と親。定員は各15組②は5月14日〜7月16日の毎週水曜10時から。定員40人③は5月16日〜7月18日の毎週金曜。対象は6カ月〜2歳7カ月の幼児とその親。時間は1歳8カ月までは10時15分から▽1歳9カ月は11時15分から。定員30組④は5月13日〜7月15日の毎週火曜19時から。対象は働く若い人。定員40人。受講料は①保育料込み2千200円②千200円③④4千円。申し込みは①4月18日(金)②30日(水)③5月9日(金)④10日(土)いずれも10時に同センターへ来館。☎(951)1234。

会員募集

●タップダンスゆうき

「麻生区下麻生92-1の38の504、角川えり子代表」30代から60代の会員が、スニーカーをはいてタ

「公開講座 土曜上映会」について 3月号「4月末から土曜上映会 日本映画学校で」の詳細は、同会で講演する国内外映画監督の日程調整のため、4月中ごろ☎(951)2511の日本映画学校へ直接お問い合わせ下さい。

アップダンスを楽しんでいます。昭和音楽芸術学院講師の結城敬二先生のいいねいな指導で、どなたでも踊れます。足に負担がかからないので気軽に参加を。練習は毎週月曜10〜11時、小田急線向ヶ丘遊園駅前前の多摩カルチャースクールスタジオ。入会金4千円、月会費4千円。連絡は☎(987)1080の代表宅。

●演劇鑑賞会 川崎市民劇場(川崎区砂子)の10の

詠者の声

グループの中から
講師が育ち喜び
絵手紙サークル墨の会
遠藤和子さん

3月号に私たちのグループが紹介され、雨の中を取材におでかけ下さいました。昨日のことのように感じられます。文を読み「まあ、何と上手に書かれたこと」と驚いております。それに優しさも加わって本当にありがたうございます。絵黒一点の森俊雄さんも」

1、斎藤忠夫代表)東京で公演される劇団の舞台を川崎で公演します。観劇会は年7回、幸文化センター、エポックなからは、宮前文化センター、多摩市民館で公演内容は、会員のアンケートで決めています。舞台を楽しめる人ならどなたでも。入会金2千3百円、月会費2千円。連絡は☎(244)7481の同川崎事務所。

手紙人生は楽しい」と言っています。女性の中に混ったときは、かなりの勇気がいったことでしょう。絵手紙は生涯学習にピッタリです。最近はお主人を亡くされたり、家族の悩みを話しに入会される方が多く、一緒に涙を流しています。その方達が2、3回通うと元気になり、うれしくなりました。川崎市には、小池先生の絵手紙講師が育っています。私のクラスからも4人が育ちました。

編集後記

私が幼少のころは地域社会が機能していた。目上の人から「こうして家族が安心して暮らせるのは、氏神様のお陰」とか「鎮守の社の境内で、悪ふざけをすると罰が当たる」など、氏神・鎮守という言葉をよく耳にした。今号の「いまを話す」で、稲毛神社宮司、市川緋佐磨さんの話を聞いて、下町にはいまだに神社にたいし親しみと畏怖の念がある、となぜかホッとした。氏神様が庶民の生活から遠のいたのは、いつごろからか。太平洋戦争が勃発してもしばらくは、氏神様のお祭りの日は学校が休みか午前中で授業が打ち切れ嬉しかった。児童の買い食いはご法度だったが、お祭りのときは例外で、屋台の焼きそばを先生が買ってきて、一緒に食べながら境内を歩いた。戦局が悪化し、天皇崇拜としての国家神道一色に塗りつぶされた。戦後、信仰の自由が

憲法にも明記されたが、多数の国民は無宗教で、国際的にも「特異な国民性」との指摘もある。宗教は、各国の民俗や歴史と無関係ではなく、その国の文化的側面をもつものだから、この指摘を無視できない。鎮守とは、貴族社会において兵士を駐屯させ、その地を鎮め守ることに由来する。それが時代を経て、共同体の身近な信仰の対象となり「神社は寄り合いの場(市川宮司)になった。最近、中学校生の非行や先生の破廉恥行為が相次ぎ報道されている。その原因を「家庭のしつけ喪失」と心理学者、先生と子供の信頼関係が薄れ、ほどよい緊張関係が失われた結果、事件が多発したと考えるのは短絡的か。お祭りでは先生と一緒に食べた焼きそばの味の思い出から、「信頼関係は地域で育まれる」と思うのはノスタルジアカ。コミュニケーションとは、家族や地域社会のこと。これを大事にしないで、「豊かさを」と言うのは、おめでたい限りだ(田)。

初めてふれるワープロ講座 I 受講者募集

- 日 時——5月13日(火)~15日(木)午前10時~午後4時
 - 会場——市教育文化会館学習室 (JR川崎駅から徒歩15分、バスあり)
 - 対象/定員——市内在住・在勤・在学の方/30人 (定員を超えた場合は抽選)
 - 受講料/教材費——9,000円/1,500円
 - 使用機種/ソフト——NEC PC9801DX-U/一太郎
- ★申し込みは4月18日(金)~25日(金)午前9時~午後5時に
☎(233)6250の川崎市生涯学習振興事業団川崎分室(月曜休み)

ステージ・アップ

小誌の取材・編集スタッフを募集

～あなたのイメージーションが広がる仕事です～

生涯学習情報誌「Stage Up」の取材・編集スタッフ（当事業団嘱託職員）を1名募集します。

応募される方は、4月14日(月)必着で、〒215 川崎市麻生区万福寺1の2の2、新百合21ビルB2、財団法人川崎市生涯学習振興事業団ステージ・アップ編集チーム嘱託職員採用係へ、履歴書（市販、写真付き）を郵送して下さい。履歴書は返ししません。また、電話でのお問い合わせはご遠慮いただきます。

- 1 〈応募資格〉 川崎市内在住の50歳未満（経験者は55歳ぐらいまで）の男女で、生涯学習に興味があり、取材や編集に意欲のある健康な方。
- 2 〈採用期間〉 1997年5月1日～98年3月31日。ただし、勤務成績が優秀な方は、採用時から雇用期間が5年を越えない範囲で更新します。
- 3 〈勤務場所〉 当事業団と取材先など。
- 4 〈勤務の日〉 原則として月曜～金曜の間の4日間（週休3日）ですが、取材などのため休日出勤をすることがあります。
- 5 〈勤務時間〉 原則として1週実働29時間で、午前8時45分から午後5時。仕事の都合で勤務時間が延びた場合は後日、代休・半代休が取れます。
- 6 〈報酬など〉 月収約170,000円。通勤手当は別途支給。期末・年末手当、退職金はありません。
- 7 〈有給休暇〉 年7日で、この他に夏季休暇があります。
- 8 〈社会保険〉 健康保険、厚生年金、雇用保険など。
- 9 〈採用合否〉 4月20日ごろ、電話でお知らせ致します。また、面接させていただくことがあります。

●発行

電話 (財)川崎市生涯学習振興事業団
044(952)5000代

FAX 〒215 川崎市麻生区万福寺1の2の2、新百合21ビル
044(952)1350 編集人・田中 園